



インテリアデザインストア「アクタス (Actus)」のエントランスの壁にデザインされたエクステリアパターン

ストレッチセンター「ファスト・ウェルネス (Fast Wellness)」と「フレクサ (Flexa)」のブランディングと新しいデザインコンセプト



日本のデザインはいつも独特です。
折り紙や書道のような伝統芸術と最新技術
を組み合わせ、さらに世界中の流行を取り
入れて自分たちのものにするに長けていま
す。Inspireでは、グラフィックデザイナーのカ
ンナアキコさんに日本のコンテンポラ
ーデザインのトレンドや欧州との文化
の違いについてお話をうか
がいました。

文：SAM EICHBLATT

DESIGNING FOR THE Japanese spirit

19

カンナアキコさんは渡英し、ロンドンの名門セントラル・セント・マーチンズ・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン (Central Saint Martins College of Art and Design) でグラフィックデザインを学びました。卒業後、英国の若者向けカルチャー雑誌『Dazed and Confused』でデザインを手がけ、その後有名な North 社に入社しました。2006 年へ東京に戻り、グラフィックデザインスタジオを設立。

ロンドンで学び、今は東京でお仕事をされていますが、この異なる 2 つの都市はご自身のスタイルにどのような影響を与えていますか？

「東京にはスタイルが溢れています。チャレンジするには良い街ですが、それは東京自体に特定のスタイルが無いことを意味しています。すべて、出現してはすぐに消え、様々なものが入り混じっています。グラフィックデザインやエディトリアル、イラストには境界線がありません。英国滞在中は、ロンドンのデザインスタジオで働きながら勉強し、自分のやり方やスタイルを確立してきましたので、状況的には怖い物はありません。すでにある程度の基礎は構築されているため、純粋に文化の違いを楽しむことができます」

歴史的にみて日本の視覚表現における美学は際立っています。

これは現代のグラフィックデザインにどのような影響を与えていますか？

「なかなか難しい質問ですね。日本文化には豊かな歴史があります。表現方法も様々ですし、とてもミニマリズム的でありながら、同時にダイナミックでもあり得るのです。日本に戻った時に感じたことは、日本人たちは色使いが非常に大胆だということでした。また、東京は色彩に溢れていて、たくさんの色が同時に混ざり合っている眺めは刺激的です」

包装は日本文化の重要な要素とも言えますが、ご自身の作品の中ではどのように取り入れていますか？

「紙や素材の選択肢が数多くありますから、どんなプロジェクトを始めるにも素晴らしい環境です。ここではリサーチも簡単です。デパートや大きなショッピングセンターの食品売り場へ行けば、いつも何か新しい発見があり今後の参考にすることができます。それに日本の印刷会社は非常に技術が高いので、デザインの最終決定の前には必ず彼らの意見を聞いています」

今後数年間で、日本のデザイン界のトレンドはとなると予想しますか？

「ヨーロッパスタイルの模倣が減少し、もっと和の精神が感じられる作品や表現法が出てくると思います」■

